

3月号

第478号

いっしん

令和7年(2025年)

いざ祈れ
祈れもろ人
いざ祈れ
あめつち
天地ありての
我れとしりなば

甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師御教

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL/FAX 0995-62-2895
Mアドレス hittobe.konkaji@gmail.com (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/《HPの「いっしん」はカラーで見れます》

立教166年／小倉教会布教140年／甘木親教会布教121年／加治木教会布教74年



甘木親教会

報徳祭

仕えられる

余寒なお厳しい二月十七日、甘木親教会では、報徳祭に引き続き初代・二代教会長例年祭が仕えられました。報徳祭は、金光四神様はもとより、教祖様の奥様（一子大神様）、第一世管長様、歴代金光様をはじめ先覚先師のご霊神様方は「神も助かり、氏子も立行く」神人の道を現わされ、生神金光大神取次の御働きによりまして、多くの人が救い助けられ、今日までおかげ蒙って参りました、そのご精神を改めて頂き、尊き御働きにお礼を申し上げるみ祭りです。

この日、報徳祭に引き続き、初代・二代教会長例年祭が仕えられました。例年祭の祭主・偲びの講話は、大口教会 長安武秀信先生でした。

偲びの講話後、甘木親教会長 安武道義親先生により教会長挨拶がありました。

『私のいただく安武松太郎師』

(矢野政美著)

1、恩師との出会い

恩師との

出会いは、

無自覚ながら、母が大

正四年夏、

産後の腎臓

病を恩師の

厚き御取次によって、一命を救われ

おかげを蒙らせていただきましたが、

病後身体の不調をお願い申し上げた

時、恩師より「もう一人子どもを患

まれば、身体の具合も良くなして

いただけるであろうからお願ひ申し

上げよう」と御取次下さり、その翌

年即ち大正五年十月二十八日にこの

世に生ましめられたことに始まりま

す。爾来ことごとく恩師の御取次と

父母の慈愛の中に成長させていた

いたのでありますが、元より恩師の

またと類なきご信境、天地の大恩を

感得なし給うその内容が理解でき

るはずもなく、ただおぼろげながら

尊いお方として敬っていたに過ぎま



安武松太郎師

せんでした。

恩師のご信心を自覚的に頂きたい

との思いをさせていただくようにな

ったのは、昭和二十年八月第二次世

界大戦に日本は敗れ終戦となり、私

もその年九月に復員させていただ

てからのことでもあります。

恩師はこの終戦をどのようなお心

構えでお迎えになられたか、それは

月例祭後のお説教、また、終日の御

結界での御理解の中に伺うことがで

きます。

「これからは、お国の再建を祈りな

さい。自分のことはお願いせぬでも

神様はちゃんとご存じだから」とか、

「このたびの戦争でたくさんの人々

が犠牲になられたが、その中で私ど

もは生き残されている。残された者

には、残された者としての大きな責

任がある」また、「これからは我が日

本は武器を捨て『まこと』をもって

世界にその範を示さねばならない。

そうして日本国民が世界のいずれの

国からも歓迎されて、どんどん海外

へ進出して行くようにならねばなら

ない」等々、なお、ご自分の抱負と

して「日本再建は、この安武が引受

けた」との意味のことも、おもしろ

くなったと聞かせていただきました。

このように燃えるようなご信念をも

つてのご神勤、ご生活でありました。

畏くも三代金光様から、『信心報

国』の御書下げを賜われたのもそ

の頃でありました。

恩師の、このような姿勢を頂いて、

敗戦による世情混乱の中、進むべき

方向を見失っていた信奉者たちは一

斉に立ち上がりました。

中でも、青年信奉者等は競い合っ

て朝参りに励み、御祈念が終り晨朝

信話を頂き、信心の研修に励ませて

いただいた後、さらに大広前の廊下

の拭き掃除、広い境内の清掃をさせ

ていただくことをこの上なき喜びと

し、そこから一日の信心生活のスタ

ートとさせていただきました。

翌二十一年、年頭の寒修行には寒

さも神様のみ恵みと、私も参拝の時

には裸足参りを続けさせていただき

ましたが、井戸ポンプの所で足を洗

って、お広前で御祈念う頂くと両足

がポカポカと暖かく、そのときの感

触は今でも脳裏に残っております。

御祈念後掃除のおかげを頂き、帰る

ときには下駄を履いて行くのですが、また、それが有り難く感じられました。そのような時、何時も青井正美氏（後、甘木教会在籍教師として御用）と一緒にでしたが、お互いに当面している問題、親兄弟にも打ち明けられないようなことでも、二人の間には何の隔たりもなく、すらすらと話し合いができて、あまりに心話しに夢中になり別れ道までくるのがあつという間に感じられました。

この青井氏が中心となり、それまで戦時中のために会員が減り自然休会の状態であった青年会も、徐々に再興が進められて行きました。

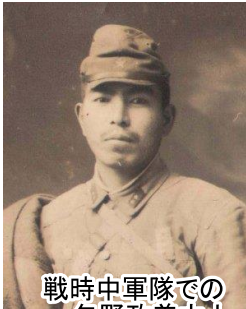
今、当時のことを憶い起こすと、毎日毎日が神様と信心以外になかったように思います。恩師の、熱烈なお祈りと御取次ご教導によりまして、信奉者等に信心の灯が次々と点され広がっていきました。

その頃、地方信徒会が各地の信奉者の家で毎晩のように開かれていましたが、現在のようには歩いて行きました。農家の私も、一日中一生懸命に家業に励ませていただき、

夕方は少し早目に家に帰り、入浴後夕食もそこそこに飛んで信徒会に参加しました。また、現親先生（故、二代甘木教会長 安武文雄師）も金光教学院を卒業された頃ですので、親先生を中心にいつも十名くらいの若者達が連れ立って、六キロも八キロもある所まで行かせていただき、夜半遅くまで信心を求め合って帰りは何時も十二時過ぎになっておりました。

今でも印象深く残っておりますことは、教会から八キロほど離れた夜須町の吉田近雄氏宅での信徒会に、青井正美氏と連れだって行きました。が、一月末の酷寒の夜で、夕方からパラついてきた雪がシンシンと降り積もって、夜半には三十センチほどにもなりましたが、その雪の中を午前一時頃から吉田家を出て、二人で信心話に夢中になって帰り、教会に着いたのが明け方の三時頃で、それから

お広前で御礼申し上げ、家に帰った時は



戦時中軍隊での
矢野政美大尉

三時半を過ぎており、すぐに布団の中にもぐり込ませていただくというようなありさまでした。そうして微睡まどろむ間もなく、朝参りをさせていただくという具合でした。しかし、それがひとつも辛いとも苦しいとも思えず、むしろ楽しく毎日毎日が張りのある生活であったように思います。

当時は、皆競い合って朝参りに励ませていただき、例えば、仕事等の関係で少し遠い所へ行くようなことがあっても必ず我家へ帰っております。それは、外泊しますと翌日の朝参りができないということ、とにかく皆が「朝参りこそ我が生命」というような思いであったように思います。その当時、教友の中尾始という人が、胃潰瘍の手術を受けましたが、ご本人はそのことによりまして大きく信心が成長致しました。このようなことを通して、二十代の若者達が信心生活の楽しさはこんなものかと、終戦直後の暗黒な世相であっただけに一入（ひと）身にしみて感じ入ったものでした。（つづく）

加治木教会 報徳祭

仕えられる

梅の蕾がふくらみだした二月二日（日）加治木教会において、報徳祭に引き続き、矢野政美大人・サダ子刀自の霊年祭が仕えられました。

金光四神様、教祖様の奥様（一子大神様）、第一世管長様、歴代金光様をはじめ先覚先師のご霊神様方を称え御礼申し上げる祭詞が奏上され、祭主玉串奉奠につづいて、参拝者が順次玉串を奉奠させていただきました。

報徳祭に引き続き、先生方がご霊前へ転座され、前教会長 矢野政美大人・サダ子刀自の霊年祭が仕えられ、加治木教会道開きのご苦勞に御礼申し上げます。祭詞が奏上されました。

祭典後のご教話は、梅木博光先生（多良木教会長）がお仕え下さいました。



多良木教会長
梅木博光先生



信徒総代



少年少女会



信徒会



婦人会



若婦人会



青年会

少年少女会 凧あげ

開かれる



桜島にはまだ雪が残りはするものの、菅原(天神)神社の梅の花が満開となった、二月二十三日(土)少年少女会「凧あげ」が開かれました。ご祈念、開会儀礼のあと、紙芝居「しようじきなきこり」(イソップ物語)で心の勉強をし、ゲーム「おちたおちた! 何が落ちた!」で空気がほくされ、凧作りが始まりました。

いろんな形のビニール凧に、いろんなデザインが描かれました。

クラゲ型やひし形、四角い凧に、「ちろびの」「のらねこくん」や恐竜、小鳥、動物などのデザインが描かれていました。

凧あげも、適度な風が吹いており、なんとか上がるのも、そうでないのも・・・

でき上がった凧は、少年少女全国大会の「作品展」に出品させていただきます。



デザインも念入りに!



♪おちたおちた! なにがおちた? クリ?! リンゴ?! かみなり!?



とんだ! とんだ!



菅原神社や天神公園で凧あげあとは、みんなでのしく遊具であそびました!



平島シゲ氏胃癌が流れて全快

(呼子教会発行「しおん」より転載)

※安武松太郎師の御取次のご内容

筑紫郡山家村上西山、平島義雄さんの母シゲさんは、六十一才の新正月のころより胃の具合が悪くなり、医師の診断を受ける、胃癌と言われた。そして、食物がだんだんと収まらぬようになって、吐くようになり、とうとうしまいには四十日もの絶食という状態となった。身体はいよいよ衰弱するし、胃の所に、二個の固まりが手に触れるようになる。義雄さんは、どうにかして母親の胃癌の病気を助けたいと思い、医者や薬、信心といろいろとやってみたがどうにも良くなりません。

その頃、弟の只助さんが朝鮮の京城で憲兵をやっていたので、その弟に電報を打つために甘木に来られた。その時、「甘木には、いつも時日を切っておかげを下さる神様がおられる」と聞いてご神縁をいただき、二日町の教会に参拝した。

天地の道理を聞き、み教えをいただいで非常にありがたく思った。その時親先生が、

「あなたは、母親の病気を助けたいばかりに医師にかかり、薬という薬を飲み、信心という信心もやってみた上、それで助からんものなら仕方がないと、普通な

らあきらめるところを、さらに親神様におすがり申して、おかげをこうむろうと思われる気持ちは、普通以上。私も、それをもって神様をお願いするから、あなたは、胃癌というような恐ろしい病気で母を亡くすことは残念でございますから、という気持ちでおすがりなさい」と教えられて、非常にありがたいと思いい、それから金光様には、おまつりかえというのがあることを聞き、だったら、自分の胃病はどれほど痛んでもよいから、母の病気をおまつりかえしていただきたいとお願ひして、その日からブツツリ薬は止め、痛むほどお母さんの病気によいと思つて一心におすがりした。そのうち、自分の病気のほうが先に治る。

母は、絶食しては体が持たぬと思つて、帰ってから、「お母さん、ご飯をいただきますせんか」と言つと、お母さんは、「ごちもいただけん」と言つ。それから神様にお願ひして、一合の米をやわらかい粥に炊いて、「神様にお願ひ申していただきなさい」と言つが、なかなか箸をつけない。

それをとにかくだかせた、その間自分にご神前で神様に一心におすがりする。すると、今までいただいていたものは、全部吐いていたのがその時から収まり、次々に三度、三度いただけるよう

になる。

二ヶ月ばかりして甘木に宿を借りて参拝しておるうちに、お母さんは次第に快方に向かい、「甘木に是非、お礼参拝したい」と言つて、牛の背に乗って山家道まで出て、それから軌道に乗つて、甘木二日町の教会に参られ、お礼を申されて帰られた。家に帰つて、ご神前に向かつてお礼を申しておられた。義雄さんも只助さんもうしろからお礼をされていると、「ごちつ」といふ大きな腹鳴りのような音が聞こえて、魚の腐った腹わたみたいなのが下つて胃の調子が良くなり、おかげで全快された。

それから八十六才までも長命のおかげをいただかれた。(つづく)

※平島義雄さんの母親を思う親孝行な心、どんな薬も信心も尽くしてみたら、それでも母親に助かってもらいたいという切実に親を思う真心を安武松太郎先生は、神様に取り次いでお願いされています。教祖様は「神様の一番の好物は親孝行」とも「自分の事より人のことを先にお願ひしてやれ」とも教えてくださっています。平島義雄さんの信心は、目先のおかけを願う信心ではなく、親の御恩を知る者がその御恩に報いずにはおれないという、報恩の信心であるところが大きなポイントです。安武松太郎先生は「親神様を信じてことよりも、おかけを信じるためにおかけが頂けない、おかけを信じるのではなく、親神様が信じてることが大切なのです」(教話集第十集)と教えてあります。

〈教会長〉

加治木教会在籍教師

中野重子先生

葬儀仕えられる



二月二十一日、
加治木教会在籍
教師、中野重子先
生が満九十二才
でお国替えされ

ました。矢野政美親先生ご夫妻のご
教導のもと加治木教会 在籍教師と
して、福本フサ子先生と一緒に、
よく信心・御用に邁進され、ご晩年
は足腰が弱られ、平成二十九年から
ご自宅にてお嬢さんの祐子さん看護
のもと療養生活を送られ、令和五年
に特別養護老人ホームに入所されて
いました。お国替えの数日前まで会
話もされ、師匠の矢野サダ子親奥様
のように、お世話になる人たちに介
護の手をかけぬようお祈りされてお
られたのか、寒の厳しい日に安らか
に急逝されました。
葬儀は、終祭が二月二十三日に、
告別式が二月二十四日に、教会長先
生ご祭主のもと仕えられました。

感詠 (教会長)

紅梅の一輪二輪咲きだして

春の訪れ報せておりぬ

四季めぐる感動あるは厳しさと
ともに現れる美しさかも

凧あげは微妙な造りの違いにて
風の恵みの受け方変わり

2月

- 1 (土) ●報徳月例祭10時半 後掃除御用
- 2 (日) ●加治木教会 報徳祭 11時
- 3 (月) 甘木親教会参拝日
- 4 (火) 甘木手柴家霊祭
- 甘木親教会初代立日御祈念10時
- 9 (日) 大口教会一年祭
- 清掃御用 10時
- 10 (月) ●月例祭10時半
- 11 (祝火) 多良木教会 報徳祭 11時
- 12 (水) 矢野政美大人立日 報徳祭
- 13 (木) 教誨御用 12時半
- 17 (月) ●甘木親教会 報徳祭11時
- 18 (火) 甘木親教会「同釜会」
- 21 (金) 清掃御用 10時
- 22 (土) ●月例祭・共励会 13時半
- 23 (日) 少年少女会「凧あげ」10時半
- 中野重子白梅香刀自終祭 17時
- 24 (月・祝) 中野重子刀自告別式 11時
- 28 (金) 清掃御用 10時

ご霊神様のお立日

三月

- 川畑ツネ 之霊神(1日) 昭和44年
 - 中野サ子 之霊神(1日) 平成13年
 - 永原スミ子 之霊神(1日) 平成20年
 - 有蘭トシ 之霊神(2日) 平成26年
 - 内村源二 之霊神(3日) 平成5年
 - 野口益三 之霊神(5日) 平成26年
 - 信國幾雄 之霊神(6日) 昭和42年
 - 大山定二 之霊神(7日) 昭和61年
 - 荒木美至 之霊神(7日) 平成18年
 - 本中野重則 之霊神(12日) 平成24年
 - 矢野クラ 之霊神(13日) 昭和31年
 - 松田モト 之霊神(15日) 昭和62年
 - 信國徹志 之霊神(18日) 昭和52年
 - 松田セイ 之霊神(20日) 昭和18年
 - 前田広実 之霊神(21日) 昭和36年
 - 瀬尾田鶴子 之霊神(22日) 平成30年
 - 吉屋茂樹 之霊神(25日) 平成4年
 - 津上陸奥 之霊神(29日) 昭和53年
 - 本中野金四郎 之霊神(30日) 昭和4年
 - 市来キヨ 之霊神(31日) 令和2年
 - 柳園ヨシ 之霊神 平成25年
- 「先祖のご霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。
立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前で霊祭をお仕えし、玉串の奉てんを準備しています。

三月二十日(祝・木)午前十時半より
春季霊祭 奉仕

〔祭典後、教話〕

※霊祭申込用紙をお結界にお届け下さい。

三月十五日(土) 14:00・十六日(日) 10:00

典楽講習会 鹿児島
 教会にて

参加費 土曜のみ 一〇〇〇円
 両日・日曜のみ 一八〇〇円

※箏・筆策・龍笛・笙などに
 チャレンジしてみませんか？

三月二十九日(土)～三十日(日)
 天地金乃神様

御本部御大祭 参拝

出発 二十九日 午前八時
 帰着 三十日 午後九時頃

※交通機関 レンタカー

四月一日(火) 午前十時半より
 月例祭に併せて

勸学祭 奉仕

健康な成長と学業成就の、御礼と

お願いを申し上げます。

※参拝の少年少女にはお直会があります。

教会行事

3月

- 1 (土) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (月) 甘木親教会参拝日
- 5 (土)～6 (日) 教誨師会研修会(二本部)
- 8 (土) 地鎮祭(木村家)
- 9 (日) 清掃御用 10時
- 10 (月) ●月例祭 10時半
- 13 (木) 矢野クラ刀自立日 御折念 10時
- 15 (土)～16 (日) 典楽講習会 鹿児島教会
- 19 (水) 清掃御用 10時
- 20 (祝木) ●春季霊祭 10時半
- 22 (土) ●月例祭・共励会 13時半
- 29 (土)～30 (日)
- 御本部天地金乃神御大祭 参拝
- 31 (月) 清掃御用 10時

4月

- 1 (火) ●報徳月例祭 10時半
- 併せて 勸学祭
- 3 (木) 甘木親教会参拝日 10時半
- 5 (土) 中野 重子刀自五十日祭(宅祭)
- 9 (水) 清掃御用 10時
- 10 (木) ●生神金光 大神様 月例祭 10時半
- 12 (土)～13 (日) 甘木親教会 青年の集い
- 13 (日) 多良木会御大祭 11時
- 16 (水) 連合会執行部会 十時半、鹿児島教会
- 引き継ぎ(連) 青少年育成企画会議
- 21 (月) 清掃御用 10時
- 22 (火) ●月例祭・共励会 13時半
- 25 (金) 甘木親教会 御大祭
- 29 (祝火) 若松教会 130年記念大祭
- 30 (水) 清掃御用 10時
- ※5月11日(日) 人吉教会 御大祭

四月十二日(土)～十三日(日)
 甘木親教会
青年のつどい 集合 十二日 十七時
 解散 十三日 十二時

